

# 久慈川・那珂川流域における減災対策協議会

## ●令和3年度 第1回 久慈川・那珂川流域における減災対策協議会

・実施日：令和3年5月28日（金）15：00～16：00

・場所：Web会議

・出席者：国土交通省常陸河川国道事務所長、国土交通省久慈川緊急治水対策河川事務所長、水戸地方気象台長、宇都宮地方気象台長、茨城県土木部河川課長（代理）、茨城県防災・危機管理部防災・危機管理課長（代理）、栃木県知事（代理）、水戸土木事務所長、常陸太田工事事務所長、常陸大宮土木事務所長、高萩工事事務所長、常陸大宮土木事務所大子工務所長、水戸市長、日立市長（代理）、常陸太田市長（代理）、ひたちなか市長、常陸大宮市長（代理）、那珂市長、茨城町長、大洗町長（代理）、城里町長（代理）、東海村長（代理）、大子町長（代理）、大田原市長（代理）、那須烏山市長、茂木町長、市貝町長、那珂川町長、東日本旅客鉄道株式会社水戸支社執行役員水戸支社長（欠席）、日本貨物鉄道株式会社安全推進部部長（代理）、鹿島臨海鉄道株式会社代表取締役副社長、ひたちなか海浜鉄道株式会社代表取締役（代理）、那須町長、東京電力リニューアブルパワー株式会社那須事業所長、農林水産省関東農政局農村振興部設計課水利計画官、農林水産省関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所長

## ●協議内容

- ・幹事会の報告
- ・規約の改定について
- ・令和2年度の取組実施状況及び今後の取組について
- ・緊急治水対策プロジェクト進捗状況について

## ●協議結果

- ・令和2年度に実施した各構成員の取組の進捗状況、実施状況等について報告を行い、取組状況等の共有を図った。
- ・規約の改定について、了承を得られた。

## ●主な意見等

### 【避難行動、水防活動に資する基盤等の整備について】

- ・水防活動を支援するため、昨年度、土嚢ステーションを市民センターに設置し、市民自らが必要に応じていつでも土嚢を持ち出しできるようにした。

### 【想定最大規模の降雨による浸水想定区域を考慮したハザードマップの作成・周知等について】

- ・昨年7月に災害情報等の入手方法やマイ・タイムラインの充実、令和元年台風第19号における浸水区域の掲載といったハザードマップの更新を行い、浸水想定区域内の全世帯に配布した。
- ・県の洪水浸水想定区域を反映したハザードマップを作成予定。
- ・災害の発生が予想される場合の情報発信・周知が非常に大切。メールアドレスを登録いただいた住民にメールで災害関連情報を配信するという取り組みを開始した。

- ・地域防災計画の改定の他、令和元年台風第 19 号の対応状況を参考にした災害対策本部の組織や避難所の指定の見直し、業務継続計画をはじめとした避難所運営や職員の初動対応など各種マニュアルの改定を行った。
- ・モデル地区において地区防災計画の策定支援をした。避難所運営の研修会や災害図上訓練を開催し、地域住民による河川の状況確認など実施した。今後も要望のあった地区へ支援を行っていく。
- ・浸水想定区域内の要配慮者利用施設に施設ごとの避難確保計画を作成いただいた。
- ・安全バイアスのため行動のスイッチを入れるのが困難であることから、それを踏まえての情報発信が必要である。電話の自動音声で住民に直接、避難情報などを配信するシステムを導入した。
- ・スマートフォンで避難所情報や災害情報などを個人が確認できる防災アプリを導入した。
- ・耳の不自由な方に対して、文字で情報を伝える通信機器を用意し、貸与する取り組みを始めた。
- ・防災無線のデジタル化を実施した。
- ・防災行政無線屋外拡声子局の嵩上げを実施した。

#### **【防災教育や防災知識の普及について】**

- ・常陸河川国道事務所の協力のもと、要配慮者利用施設の管理者を対象としたマイ・タイムライン作成の講習会を開催した。

#### **【より効果的な水防活動の実施及び水防体制の強化について】**

- ・共同点検を実施し、重要水防箇所等を確認した。
- ・市水防団、自治会、自主防災組織、連合会で樋門の操作訓練を実施した。
- ・今年 7 月に栃木県の防災図上訓練が行われるため、令和元年台風第 19 号の経験を活かしてしっかり揃えて図上訓練に臨みたい。

#### **【ハード対策について】**

- ・河川敷内の樹木伐採や霞堤の整備についての調整等、市としても全面的に協力していく。
- ・令和元年台風第 19 号で甚大な被害が出たことも踏まえて、ダムを活用した治水対策の検討も必要なのではないか。

#### **【その他】**

- ・那珂川緊急治水対策プロジェクト推進室を設置した。今後、地元、県及び国との連携を積極的に進めていきたい。
- ・コロナ禍においても様々な事態に対応できるよう万全の対策を講じていきたい。
- ・霞堤、集団移転等について検討を進めていきたい。
- ・Society5.0 の具現化、国土強靱化を目指ししっかりと対応していきたい。
- ・流域治水として、久慈川・那珂川に流入する中小河川の治水対策も考える必要がある。
- ・中小河川のなかで遊水能力をどう高めるかが、将来に向けての流域治水の大きな対策、課題になっていくのではないかと考えている。

以上